

膠原病と肺疾患

表 1 に示したように間質性肺炎を合併する膠原病として特に

- シェーングレン症候群 (SjS)
- 全身性強皮症 (SSc)
- 多発性筋炎および皮膚筋炎 (PM/DM)

が重要。

膠原病における間質性肺炎をはじめとする呼吸器系病変を膠原病肺と言う。以下に間質性肺炎以外の重要な膠原病肺を挙げる。

1. SLE と肺疾患

SLE は肺疾患として間質性肺炎よりも非感染性の胸膜炎を生じる。胸水中の LE 細胞陽性や補体低下が診断の参考となる。

2. PM/DM と肺疾患

本症の 10 - 20 % で悪性腫瘍を合併する。一般の腫瘍と同様、胃癌、肺癌、大腸癌が多い。本症を診断した場合、悪性腫瘍の検索を怠ってはならない。

3. MCTD と肺疾患

呼吸器病変の合併がとりわけ高く、肺高血圧は予後悪化因子として重要。

	間質性肺炎	DAD	胸膜炎	肺胞出血	肺高血圧	BOOP	その他
RA							抗リウマチ薬の副作用、慢性閉塞性肺疾患
SLE							
SjS							LIP、悪性リンパ腫
SSc							腎クリーゼに伴う肺胞出血
PM							悪性腫瘍
DM							悪性腫瘍、縦隔気腫
MCTD							
血管炎							

表 1: 膠原病に見られる肺疾患 ; 高頻度、BOOP; 器質化肺炎を伴う閉塞性細気管支炎、DAD; びまん性肺胞障害、DM; 皮膚筋炎、PM; 多発性筋炎、LIP; リンパ球性間質性肺炎、MCTD; 混合性結合組織病、RA; 関節リウマチ、SjS; 症候群、SLE; 全身性、SSc ; 全身性強皮症 (『呼吸器病 New Approach 7』より)